

# 香港における人民元の動向

text by 滋賀銀行 香港支店 山岡 剛



ブランドショップに並ぶ人々。中国本土からの旅行者が目立つ

中国本土から多数の旅行者が香港を訪れ、自国通貨である「元」をふんだんに使っている。「オフショア人民元市場」(中国本土外の人民元市場)としての地位確立を目指してきた香港では、中国本土からの旅行者の旺盛な消費に支えられて人民元のプレゼンスが高まる一方である。香港での人民元の「今」をレポートする。

## 香港でますます旺盛な中国人の消費力

香港の主な収入源は、観光である。昨年の香港の旅行客数は前年比16.4%増の4,192万人で過去最高を記録した。そのうち中国本土からの旅行者は同23.9%も増加して2,810万人、全体の約67%を占めた。増加の背景には、深圳市民へのマルチビザ(数次査証)発給があったとされている。

本土からの旅行者の購買力には目を見張るものがある。本土ではブランド品に15~25%、酒や化粧品に50%超課せられる輸入関税も、香港では非課税であり、本土からの旅行者が買い物に熱をあげている。買い物にはクレジットカードなどを利用するケースが多いが、なかにはかばんに100元札をぎっしり詰めて店員と価格交渉する人もおり、そのエネルギーに圧倒される。ブランドショップの本土からの旅行者の長い行列は、香港での見慣れた光景となっている。

観光地ではない住宅地域でもキャリアケースを持った本土からの旅行者を多数見かける。私の自宅近くの大手日系スーパーでも、本土からの旅行者向けに「人民元使用可能」のボードを掲示し、人民元での買い物を歓迎している。銀行ATMから現金を引き出す際にも、香港ドルか人民元か、の選択ができるなど、人民元は香港ですっかり身近な存在になった。

## 香港の銀行が人民元預金獲得競争

中国人民銀行と香港金融管理局は2010年、香港で「オフショア人民元市場」を認可。中国政府公認の市場として人民元決済が行われ、資金調達や運用のマーケットもある。

買い物などで支払われた人民元は「オフショア人民元」として香港の銀行に預金される。2004年2月、香港の銀行での人民元預金が解禁されたが、人民元の先高感を背景に「香港ドルを売って人民元を買

う」動きが加速し残高は2011年1年間で約2,736億元(約3兆3千億円)も増加、昨年末時点で5,885億元(約7兆1千億円)となり、香港は世界最大の「オフショア人民元市場」になった。

しかし、昨年からの人民元預金に異変が起きている。オフショア人民元の運用は、従来は預金しか選択肢がなかったが、海外の投資家が中国本土外で調達した人民元を本土の株式・債券に投資できる「RQFII(適格海外機関投資家)制度」が解禁された。オフショア人民元の新たな投資先ができたことにより、昨年12月単月の香港域内の人民元預金は前月比約388億元、6.2%減少し、2004年の人民元業務開始以来最大の落ち込みとなった。

運用手段の拡大などによる香港域内の人民元預金の減少は、マーケットの人民元金利を上昇させた。香港でリテール業務を営む銀行などは「人民元預金キャンペーン」を展開、運用の選択肢が広がる人民元預金獲得に懸命だ。



リテール業務を営む金融機関は、人民元預金の獲得競争を展開している

## 当行が日本の他地銀に先駆けて人民元建て融資

昨年、人民元建てによる対中直接投資の規制が緩和され、香港から中国本土の企業へ人民元建て融資が可能となった。

香港からメジャー通貨を目指す人民元は、規制緩和の進行とともに決済金額の増加と人民元建て融資取引の拡大が見込まれる。

当行香港支店では、従来の人民元預金、送金業務に加えて「人民元建て融資」をおこなう体制を整え、中国・上海に進出の日系企業にこのほど融資実行した。中国本土の企業への「人民元建て融資」は、日本の地方銀行として初めてである。

中国へ進出の日系企業に対して従来の米ドル・日本円でのクロスボーダーローンに加え、人民元建てご融資をメニューの一つとして提案、お客さまの中国ビジネスをご支援していきたい。



現金を引き出す際に、香港ドルか人民元かを選択できる



大手日系スーパーでは、店内に香港ドルと人民元との交換レートを表示し、人民元での支払いも対応している

## 地銀初 中国本土向け人民元建て融資実行

当行は3月1日、香港から中国本土向けの人民元建て融資を実行しました。これは地方銀行初の取り組みです。

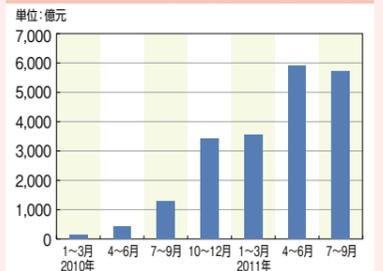
従来、人民元は中国本土のみで流通する規制通貨でしたが、中国経済の発展とともに規制が緩和され、香港では人民元のオフショアマーケット(域外市場)として取引が増加しています。中国当局による人民元建て資本取引の規制緩和を受け、当行は香港に支店を持つ強みを生かし、一般の融資を実行しました。

人民元の国際化は徐々に進んでいます。しかし、日中間の人民元建て決済は円換算で1,500億円相当(2011年)と全体の貿易額のわずか1%にすぎません。その理由の一つは、「資本取引の規制」です。現地法人設立時の資本金を含めた出資や増資、親子ローン、中国域外からの金融機関借入などは、米ドルや日本円などの外貨建てが主流です。今回の人民元建て融資についても、関連当局への認可申請など詳細が決定しておらず、手続きに多大な時間を要することになりました。もう一つは、「人民元調達に係る規制」です。日本国内で人民元を調達するには、資金用途を明確にする必要があり、米ドル、ユーロのように、自由に調達することができません。

最近では、中国人民銀行から、中国からの輸出入貿易、サービス貿易などの経常項目に従事可能な企業であれば、すべて人民元建て決済が可能となる内容の通達が公布されるなど、規制は少しずつ緩和され人民元決済額は増加しています(下表ご参照)。今後も人民元マーケットの拡大と中国本土の規制緩和により、中国現地法人の資金調達はますます多様化すると考えられます。人民元ニーズに対応するために、当行は海外拠点と連携し、さらにサービス向上に努めます。

(しがぎんアジア月報3月号より国際部アジアデスク)

### クロスボーダー貿易 人民元決済額の推移



出典:中国人民銀行